

平成26年度市政懇談会 開催結果概要

- 平成26年8月5日(火)午後6時～
- まなぼっと幣舞 601号室
- 出席者 25人

【市長挨拶】

○はじめに

本日は、お疲れのところ、市政懇談会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

また、本日は後ろの方にウガンダからお越しのJICA研修生がいらしています。地方自治についての研修をされているということで、本日参加していただいております。

今回の市政懇談会は、事前に各町内会の皆様にご協力をいただき、地域の課題を調査や聞き取りなどをさせていただき、地域の課題を掘り下げて丁寧な対応ができるように取り組ませていただきました。

また、本日も改めてお話を伺って市政へ活かしていきたいと思っております。

港まつりも3日間、本当に天候に恵まれまして、すべての行事が予定どおり行われました。また、昨日より栄町平和公園で商工会議所青年部の皆さんによりビアガーデンならぬ「ヒアガーデン」がスタートされたところです。8月いっぱい開催していますので、ぜひとも参加いただいて地域の活性化にご協力いただけたら幸いです。

○(仮称) 釧路市自治基本条例について

市では、現在、「(仮称) 釧路市自治基本条例」の制定に向けた検討を進めています。「自治基本条例」は、「まちづくり条例」などさまざまな名称がありますが、全国で300以上の自治体で制定しています。

行政と議会、そして市民がそれぞれの役割を担いながら、協力してまちづくりを進めていくために基本的な考え方やルールを定める条例を制定するという全国的な流れでございます。

私は、釧路市には、この「市民力」があふれていると感じています。

一例を挙げますと、去年の「子どもたちにキリンを見せてあげたい」という思いを大きな力に変えて、釧路市動物園にキリンをご寄付いただいた「チャイルズエンジェル」様のご活躍は、記憶に新しいところです。他の自治体では考えられない動きで、わずか1年余りの間に実際にキリンが2頭、動物園にいる、という状況になっているわけです。

その前にも同様の動きはあり、幣舞橋には4体の「道東の四季像」がありますが、公の橋の上にこのような像があるというのは、それまで例がなく、釧路での取り組みが初めてでございました。市民の皆さんの「像を置

きたい」という思いが実現につながったものです。この取り組みは平成12年の建設白書にも紹介されたところですが、他にも市民力による活動は多くあります。

こうした、「市民力」と市役所、議会をしっかりと結び付けていくということが重要だと思っており、そのような中で（仮称）釧路市自治基本条例制定の動きは重要なものだと思っております。

しっかりと市民の皆さんのご意見を伺いながら来年度の条例施行を目指してまいります。

○町内会の加入促進について

市でも、何とか多くの方に町内会に加入していただくように頑張っているところですが、なかなか成果が出ていない状況です。町内会の役員の皆さんにも大変努力していただいておりますが、非常に困難な問題に町内会の皆さんを巻き込んでしまった、という気持ちでございます。

しかしながら、私は、これは絶対に取り組みなくてはならないと考えています。どんなものであっても、失ったものを取り戻すためには何倍もの時間が必要だといわれています。

地域のコミュニティ、町内会の重要性は誰もが理解していることであり、また、市政執行上も欠くことのできない自治組織でもあります。

来年、平成27年に連合町内会創立50周年を迎えるにあたり、改めてこれまでの双方の連携をさらに強化するため、今年度、新たに、連合町内会と釧路市との「連携基本協定書」を締結することをご提案したいと考えております。

連合町内会と釧路市がそれぞれ果たすべき役割を再認識し、連携してさまざまな取り組みを行うとともに、市民にその取り組みを目に見える形で、しっかりと示していくことにより、町内会の重要性を市民に周知することに加え、次なる、町内会加入促進策につなげていこうと考えております。

具体的には、たとえば、①アパート・マンション入居者の加入促進に向けた不動産関連団体との連携、②同様に、公営住宅入居者の加入促進に向けた自治会や住宅公社との連携、③さらには、企業、官公庁、学校等への加入要請活動の展開など、市域全体での町内会加入促進活動に取り組むことができるのではないかと思います。

具体的な「連携基本協定書」の内容につきましては、今後、連合町内会事務局および町内会加入促進委員会の場で、しっかりと協議させていただきたいと考えておりますが、できれば、10月の「町内会加入促進強調月間」の前に締結し、加入要請活動に弾みをつけていくことを期待しております。

また、全戸に配布しています、広報くしろの表紙に小さなスペースではありますが、町内会に関する情報を毎月掲載しています。このように市としましても、今後できる限りの取り組みをして加入促進につなげてまい

りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○中心市街地について

私も釧路生まれ、釧路育ちですので、以前の北大通の賑わいには思いが強くございます。

中心市街地の活性化については、平成20年にまちづくり会社を設立して以来、なかなか取り組みが進んでいませんでしたが、このたび、釧路市中心市街地活性化協議会において、北大通3丁目・4丁目における民間企業による再開発事業が推進されることが表明されたところでもあります。

それ以前にまちなか居住の取り組みとして、道営住宅が2棟、建設されているという動きがあり、このたびの民間の動きが加わってきたということは、大変喜ばしいことだと思っております。さらに釧路市では、日本銀行・旧釧路支店の建物等の保存について検討を進めているところです。何に活用するのか、という具体的なことは今後の検討となりますが、幣舞橋からロータリー、そして日本銀行・旧釧路支店の建物がある風景というのは、地域住民にとっては、非常に懐かしさを感じる風景でもあります。市が動き出さなければ、取り壊されてしまう可能性もありますので、保存に向けての検討をしていく予定です。

さらに北大通では、新図書館の入居を検討しています、道銀ビルの建築も予定されており、このようなさまざまな事業の展開により、都心部地区に魅力と賑わいの創出が図られるものと期待しております。

【地域からいただいた課題等への回答について】

○空きビル・空き家・空き地対策について

この問題も、多くの地域の方から課題としてあげられていました。

釧路市のみならず、全国で同様な課題が出ているところでございます。

この問題の背景には、土地に建物がある限り、土地に関する税の優遇制度があるため、所有者が長年放置し、土地利用が進まないという制度上の課題もあると考えられます。

現在、国では、「空家等対策の推進に関する特別措置法」を今秋の国会に提出する予定となっているようであり、国の動向を見ながら、市としても対策を考えてまいりたいと存じます。

○幣舞橋下釧路川左岸に係留されている廃船の撤去について（水産港湾空港部長）

放置されている廃船は2隻あり、2隻とも港湾施設を無許可で使用している不法係留船です。

所有者を特定し、撤去警告通知をおこなったり、海上保安部と協力して、直接に交渉したりしていますが、撤去には応じず、現在、所有者とコンタクトが取れない状況となっています。

市がおこなえる手段として、行政代執行により放置艇を撤去することが考えられますが、本来は、所有者が管理・処分するのが原則であることから、現状の対策としては、海上保安部と協力し、所有者と何とかコンタクトをとり、改善にいたるよう努めているところです。

○武佐小学校への備蓄について（防災危機管理監）

昨年度、新たに津波緊急避難施設等に指定した小中学校等につきましては、平成 26 年度の予算で非常用食料等の配置作業を進めており、武佐小学校につきましても年内に配置を完了できる予定です。

○浜町ポンプ場を活用した津波避難場所の指定にかかる進捗状況について（防災危機管理監）

地域防災計画で津波避難施設等に指定する建物につきましては、国の指導により、震度 7 クラスの地震にも耐えられる耐震強度が求められており、昭和 55 年完成した浜町下水ポンプ場は古い耐震基準で建てられているため耐震強度が不足しており、避難施設に指定できない状況にあります。

今後、浜町ポンプ場は他の下水道施設とともに、年次計画で耐震補強工事が実施される計画となっており、耐震補強が完了した時点で、津波避難施設に追加指定できるよう担当の下水道施設課とも協議を行なっております。

●質疑応答

【参加者 A】

町内会の加入促進について集合住宅等へ対応策が具体的に示されたので、期待したいと考えています。町内会役員もこれまで以上に頑張っており、取り組みたいと思います。

【市長】

なんとか加入率向上に向けて目に見える形にしてきたいと考えています。町内会に加入することを単純にメリット、デメリットだけで判断できないものだと考えています。風土や文化の継承が大事だと思いますのでしっかり取り組んでいきます。

【参加者 B】

残念ながら町内会の加入率は 46% で道内の同規模都市と比較しても、最下位レベルです。市民力が高いといわれる一方で加入率は低い。市民一人一人がみんなで頑張っていくべきなのに、加入していない釧路市職員がおり、非常に残念です。更なる加入促進に向けて努力してほしいです。

【市長】

職員の加入率が100%でないのは非常に残念な状況です。10月の加入促進月間に向けてしっかり取り組んでいきたいと考えています。

【市民環境部長】

連合町内会の加入促進委員会に参加させていただきましたが、連合町内会単独での加入促進は難しい段階にあると考えており、市の職員にも加入要請の働きかけを行っていきます。

【参加者 C】

事前質問の宝町のポンプ場の津波一時避難所としての整備について、年次計画で実施される予定との説明がありましたが、来年度から取り掛かるということなのでしょうか。

【防災危機管理監】

鉏路地区には下水道処理場が3カ所、ポンプ場は9カ所あり、耐震診断を行って、強度の不足する建物については、まずは有人施設の処理場から耐震対応を行うこととしています。ご指摘の浜町ポンプ場ですが、これについては地域住民の皆様から津波避難施設として活用したいとの要望が出されていることを伝え、改修の優先順位を繰り上げてもらうなどの対応を取ってもらうよう担当課と相談したいと考えています。

【参加者 D】

ご近所とのつながりが大事だと思います。町内会に入って何か良いことがあるかと聞かれます。子供達の安全のためにも地域で教育、町内会とのかかわりを求めていきたいと考えています。個人情報取り扱いについても理解が必要です。

【市長】

助け合ってすすめていく社会が重要だと考えます。学校、家庭、地域の連携は昔からいわれています。皆様には登校時の児童への交通安全声かけ運動などを行っていただき感謝します。

先日、通学路安全マップが作成されました。実際に専門家が地域を調査しました。行政とも住民とも全く異なる視点で地域を見て作成されたものです。一緒に具体的な活動をしていくことが重要だと考えます。

【参加者 E】

中心市街地活性化、北大通活性化が徐々に進んできたと感じます。しかし、コンパクトシティに向けて、まちづくりのテーマが必要なのではないのでしょうか？

また、今年には外国客船が耐震岸壁に入ると聞いており、南大通商店街の店舗も商機に期待していましたが、理由はよくわかりませんが、実際は西港に入っています。乗船客も街中に入ると期待して来ていると思います。

【市長】

コンパクトシティとは特に決まった定義があるわけではなく、釧路市のコンパクトシティは歩いて行ける生活圏に公共施設、店舗、病院、銀行があるといったまちづくりのこととしており、市内 7 か所の地域交流拠点・生活拠点を検討しています。

また、それとは別に中心市街地は都市の顔、街の顔なので、バス路線、官公庁の整備なども検討していかなければいけないと考えています。25万人を目指していた中で、人口減少に対応したまちづくりを行っていくことが大切だと考えています。

クルーズ船の受入については、耐震岸壁を整備した時は国内最大の飛鳥Ⅱ（5万2千t）への対応を想定していました。しかし、その後、世界の趨勢として客船の大型化が進み、世界最大は24万トンです。したがって、船体が沈む深さ（喫水）が深くなるため、現在、西港に入港しています。しかしながら、釧路は他都市と比較して中心市街地に近いので、シャトルバスなどの運行等で対応していきたいと考えています。

【参加者 F】

老人クラブの集まりで2015年には人口が15万人に下がるとの話を聞きました。漁業、炭鉱の衰退による人口減少が続いています。

【市長】

1970年代から人口減少社会についてはいわれてきました。1人の女性が一生に産む女性の数である合計特殊出生率といった数値もありますが、働く場所の確保を進めていくことが重要だと考えています。高度経済成長期には都市に人口が集中していましたが、生活スタイルも多様化しています。気候や環境が良いという特色を活かしていくことが重要だと思います。

【参加者 G】

バルク港湾のその後についてどのような展開になっているのでしょうか。バルク港湾の背景にある産業を興すことが必要だと考えています。

海外からの観光客の経済効果は大きいですが、復興航空が5月から飛ばなくなりました。何か新しい誘致などはありますか。

また、以前、台湾のLED企業を釧白工業団地へ誘致する話がありましたが、その後どうなっていますか。

【市長】

穀物バルク整備事業が4か年事業で始まります。－14m岸壁に整備され、パナマックス船に対応が可能になります。主に北米から日本に輸入されるトウモロコシは1400万トンです。約90万トンが釧路港で降ろされ、背後の酪農地域に供給されます。酪農の生産経費が抑えられることになり産業の育成にもつながります。

次に復興航空の釧路便がなくなったことについてですが、会社の経営方針の転換により黒字路線ではありましたが残念ながら廃止になりました。

釧路空港は民間空港が導入できる最新CATⅢBという計器着陸装置が導入されていますが、国際標準ではCATⅡが搭載されており、相互の互換性がないため、CATⅢBが導入されていない国際線の誘致が難しい原因となっています。このため、国際線の誘致を促進させるためにCATⅡの設置要望を国に対して進めているところです。

釧路工業団地への企業誘致については、釧路の強みを生かせる、この地でしかできないものを作っていくことが大切だと考えています。

【参加者H】

TPPも影響があることなのではないでしょうか。

【市長】

TPPについてはこの地域への被害額の試算もでており、北海道と共に反対の姿勢を示しています。北海道は食、観光、エネルギーをキーワードに取り組んでいます。安全な食を提供していくことは北海道の強みです。TPPについては反対の姿勢をしっかりと示しバルクを通じて地域の一次産業を強めていきたいと考えています。

【参加者I】

釧路川の左岸、街路灯が切れています。10灯くらい消えており、安全、防犯上も問題と思います。

【水産港湾空港部長】

財政支出削減のため、間引きして点灯させていただいています。必要な照度や安全性については十分に検討しておりますのでご理解をいただきたくお願いします。なお、間引き以外の街路灯についてはきちんと点検します。